

PC-320

コンパートメント症候群から創部感染により抗生剤選択に難渋した症例

那須赤十字病院 薬剤部

○海老原 豊、倉井 岳史、永江 源太郎、佐藤 学、金子 和生、中丸 朗

脛骨高原骨折、大腿骨骨幹部骨折にて、救急搬送されてきた症例。手術施行したが、発熱が続き、CRP高値が継続する。临床上、コンパートメント症候群発症と診断。緊急にて筋膜切開術を施行する。その後も、創部感染を併発、骨髓炎を発症。抗生剤にて治療するも改善傾向なく経過。ICU介入により、抗生剤変更する。その後も改善みられず。当院にて、許可制である、リネゾリド、ダプトマイシン等を投与し、徐々に改善傾向みられるもまたCRP上昇。その後の治療薬においても抗生剤の選択に難渋した症例。

PC-321

乳房放射線治療時における病衣等使用に関する施設アンケート調査結果

熊本赤十字病院 放射線治療科¹⁾、画像診断治療センター²⁾、放射線診断科³⁾

○馬場 祐之¹⁾、桑原 珠世²⁾、濱田 勝徳²⁾、増田 弘明²⁾、山室 勇太²⁾、上谷 浩之¹⁾、中島 康也³⁾、彌永 由美³⁾、菅原 丈志³⁾

従来、乳房放射線治療の際には皮膚線量の増加を危惧して着衣の無い状態での照射を実施する事が一般的に行われてきた。しかし、近年では若年の乳癌患者も増加している事もあり、一部の施設では放射線治療用病衣を開発して使用するなどの配慮がなされてきている。我々の施設でも現在は着衣の無い状態で照射を行っているが、何らかの配慮が必要ではないかとの意見もあり、他施設の状況を調査する事とした。全国の赤十字病院のうち放射線治療を実施している事がホームページから確認できた47施設に「乳房放射線治療時等における患者への配慮に関するアンケート」を送付し、35施設から回答を得た。当院を含めて36施設での現状を報告する。3施設で久留米大学で開発された放射線治療用病衣(マンマスーツ)を使用4施設でシーツ・タオル等で両側を覆って照射6施設で健側のみシーツ・タオル等で覆って照射当施設を含めて23施設では何も使用せずに照射また、5施設では女性放射線技師による放射線治療を実施していた。現時点でも相当数の施設で乳房放射線治療時にシーツ等で覆って照射を行っている事がアンケート結果から示された。放射線治療でも乳腺撮影等と同様に患者への配慮の点から女性技師の採用等も含めた対応が今後求められると考えられる。

PC-322

¹²³I-MIBG 専用 Planar Phantom を用いた H/M 算出における回帰式補正についての検討

旭川赤十字病院 医療技術部放射線科

○荻野 真博、岡林 篤弘、長尾 圭介、瀬川 千晴、平野 充

【背景および目的】¹²³I-MIBG 心臓交感神経シンチグラフィの心縦隔比(H/M)は使用装置やコリメータによって値が変化することが知られている。¹²³I-MIBG 専用 Planar Phantom は異なる装置やコリメータを使用した場合、同一のH/Mを得るための補正用として開発された平面 Phantom である。今回、この Phantom により得られた回帰式は妥当なものであるか検討した。

【方法】アクリル厚の異なる2種類の Phantom に同濃度の¹²³I-MIBG を封入し、それぞれ前面像と後面像を撮像した。コリメータは LEHR、LMEGP、MELP の3種類で撮像を行った。心・縦隔に ROI を設定し、得られた H/M よりコリメータ間の回帰直線を得た。臨床例でも同様に回帰直線を得て Phantom との比較を行った。

【結果および考察】Phantom 実験では各コリメータ間で極めて良い回帰式が得られたが、臨床例での回帰式と比較して若干の差異を認めた。この差異は臓器の動きや体内から発生する散乱線の違いと考えられる。Phantom 実験でこれらを再現することは不可能なため、臨床例のデータを用いる方がより精度の高い補正が可能と考えられる。

PC-323

ダットスキャンの撮像条件の検討

旭川赤十字病院 医療技術部・放射線科

○平野 充、岡林 篤弘、荻野 真博、長尾 圭介、瀬川 千晴

【目的】ダットスキャンイメージングにおける再構成条件の違いによる SBR の変化と適切な収集時間の検討を行う。

【対象】健康ボランティア 20 名(男性 14 名、女性 6 名、年齢 40.2 ± 13 歳)

【方法】再構成条件は、散乱補正の有無(以下 SC+,SC-) および吸収補正の有無(以下 AC+,AC-) で処理を行い SBR を比較した。適切な収集時間については、30 分連続撮像した画像を 5 分刻みで 5 分から 30 分まで作成し、当院核医学担当技師 5 名で視覚的評価を行った。また、線条体とバックグラウンド(以下 BG) それぞれの変動係数を用いて検討を行った。

【結果】SC-AC+ は SC-AC- に比べ SBR が高くなった。SC+AC+ では SC-AC+ に比べさらに高くなった。収集時間を変えた画像の視覚評価は、20 分以降の画像に良い評価が集まった。線条体の変動係数は収集時間にかかわらずあまり変化がなかった。一方、BG の変動係数は 20 分以降の収集時間でほぼ低値に安定した。

【考察】散乱補正によって SBR は、BG のカウントが減るために高くなると考えられる。視覚的評価と BG の変動係数の結果より、当院の装置では 20 分以上の撮像時間が望ましいと考えられる。